



西野 貴幸(にしの たかゆき)
千葉大学大学院
融合科学研究科博士課程1年

平成20年度より基幹研究所
石橋極微デバイス研究室にJRA
として所属

ナノギャップ電極間に架橋した低
次元ナノ構造の電子輸送特性に
関する研究に取り組んでいる。



理研で博士課程研修生として研究を希望される方へ

【JRAに応募した経緯】

私は、学部4年生の時から半導体の研究をスタートさせましたが、研究を進めるうちにナノテクノロジーに非常に強い関心を持ちました。修士課程を修了する時には、博士課程への進学を考えていませんでしたが、将来ナノテクノロジーに関わる世界で社会貢献していきたいという考えが常日頃ありました。そのためにはより専門的な知識と経験が必要であると感じ、社会人の経験を経て、進学を決意いたしました。その際、理研に取り組みたい研究テーマのある当研究室があることを知り、JRA制度の紹介を受けて、応募するに至りました。

【JRAとして理研において研究を実施したことにより、大学での研究では得られなかったこと】

何と言っても、実験設備が充実していることを、最初に実感いたしました。私の研究テーマに関連する理研の代表的な施設に、ナノサイエンス研究棟が挙げられます。ここでは、クリーンルームや各種微細加工装置及び極低温測定装置が集結しており、分野の第一線で活躍されているPh.D.先輩研究者の方から常に適切なアドバイスを受けながら、研究を進めていくことが可能です。また、当施設で定期的にナノテクノロジーに関するシンポジウムが開催され、最先端の研究動向や情報を身近に得ることが出来ます。文献調査も容易に行うことができ必要な情報は短時間で入手することができます。

【後輩へのメッセージ】

理研はとても開かれた環境であり、ナノサイエンスを研鑽するには申し分のない場所であると思います。私は、自分の志に対し寛容に受け入れてくれた、理研および当研究室・そして生活のサポートを一時的に許可してくれた両親に常に感謝の意を持って研究を行っています。

また理研にはサイエンスに情熱を持って取り組む方も多く、異分野との交流も相まって、刺激のかつ良い緊張感を持って研究を進めることができます。研究生活に関するバックアップも十分に受けることが出来ます。その上で、JRAという制度は金銭的な面で大きな支えになります。給与をいただくことで、研究に対して責任感を持つことができますし、生活面でも支えとなります。理研での生活は、その後の進路にとって大きな糧になるものと信じています。

博士課程の研修生として理研での研究をお考えの方は、是非JRA制度を有効利用して自分の目標に向かって積極的な研究活動を行ってください。

